

この街が好きだから

武蔵野 スケッチ 物語 101

境南町一丁目
付近にて

絵と文 大須賀一雄

見慣れた風景も、
絵になるとちょっと違う趣が出てきます。
そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが
春夏秋冬で切り取って描きます。



6月19日〜29日に吉祥寺美術館で、市主催の「武蔵野スケッチ物語」連載100回記念展覧会が開かれた。私のこのコーナーが、前号で100回目になったのを記念して開催されたものだ。

大勢の方々の来場があり、大成功であった。市職員の方々や吉祥寺美術館スタッフの皆さんのおかげであったと思っっている。連載100回分を壁一面に展示したアイデアにも感謝している。数多くの来場者の方々にも、この誌面を借りてお礼を申し上げたい。印象に残ったのが、「当時はここにあった大きな看板、今はなくなっています」などの声。私はその時、その場所で精いっぱい絵を描いてきたつもりなのだが、結果としてある場所の「今」を絵にしていたのだ。街も私たちの生活も生きていて、変化している。今後その瞬間を感じ、描いていきたいと思った。

大須賀一雄（おおすか かずお） 水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。2022年まで、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。